

久留米

〔December 20, 2013〕

高専通信

第74号

久留米工業高等専門学校企画主事室
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>

「鬼十則」(おにじゅっそく)

皆さんは「電通」という名前を聞いたことがありますか？
(株)電通(DENTSU INC)は、日本の広告市場の24%を占め、国内のテレビ・ラジオ・新聞・雑誌の広告シェア第1位の企業であり、電通グループは、売上総利益で世界第5位(2012年)になっています。オリンピックの放映権の販売やサッカーJリーグのスポンサー集めなども行っています。

今では世界的な巨大グループになっている電通ですが、明治34年(1901)に前身の会社が設立されて以後、太平洋戦争直後までは大きな企業ではありませんでした。

電通が今日の世界的な会社となる礎を築いたのは、福岡県小倉市生まれの4代目の吉田秀雄社長です。「広告の鬼」と言われたほどの猛烈な働きぶりで、亡くなるまでの16年間社長として電通を牽引し、中興の祖と言われています。

その吉田社長が、社長就任以来、社員に広告の鬼になれと叱咤激励し、社長就任4年後の昭和26年(1951)に自ら書き著したのが次の「鬼十則」です。

- 一、仕事は自ら「創る」可きで与えられる可きでない
- 二、仕事とは 先手先手と「働き掛け」て行くことで受け身でやるものではない
- 三、「大きな仕事」と取り組み 小さな仕事は己を小さくする
- 四、「難しい仕事」を狙え そして之を成し遂げる所に進歩がある
- 五、取り組んだら「放すな」 殺されても放すな 目的完遂までは
- 六、周囲を「引き摺り廻せ」 引き摺るのと引き摺られるのとでは永い間に天地のひらきが出る
- 七、「計画」を持って 長期の計画を持って居れば忍耐と工夫とそして正しい努力と希望が生れる
- 八、「自信」を持って 自信がないから君の仕事には迫力も粘りもそして厚味すらがない



久留米工業高等専門学校
校長 上田 孝

九、頭は常に「全廻転」 八方に気を配って一分の隙もあってはならぬ サービスとはそのようなものだ

十、「摩擦を怖れるな」 摩擦は進歩の母 積極の肥料だ でないと君は卑屈未練になる

当時、日本は高度経済成長期で、「モーレツ社員」という言葉が流行るほど、仕事=生活として仕事に打ち込む人々が大勢いました。高専が各地に設置された時代と聞けば、少しは身近に感じられるかもしれません。

この電通「鬼十則」には、色々な国や時代の人々によって言われている普遍的内容が多く含まれており、国内はもとより、英語版Dentsu's 10 Working Guidelinesに翻訳されて海外の企業にも取り入れられています。この十則を満たす人は、まさに世界の企業が求める人材と言えます。

企業のみでなく、皆さんが高専で学んでいく上でも重要なことが書かれています。卒業後に社会に出て働くときにも、更に人生を歩んでいく上でも指針となるアドバイスです。

皆さんが学生生活において、ふと立ち止まったときにこの鬼十則を思い出してみてください。あれこれと思いつく節が多いことに驚くかもしれません。人から言われて何かをするよりは、自らやろうとしたときの方が充実感があるでしょうし、授業の課題や宿題は先手先手で早くやっておけば…、ひとたび課題に取り組んだら諦めずに最後まで頑張り抜くことなど、10項目が色々当てはまりそうです。

高専生活は長いようで瞬く間に過ぎてしまいます。皆さんが、人生の中でおそらく最大の自由度がある、恵まれた「学生」という時期に、少なくとも一度は何か思いっきり打ち込んでみる「モーレツ学生」をやってみたら、今後の人生を過ごす上での大きな礎を築けるに違いありません。

高専祭を終えて

高専祭実行委員長
電気電子工学科4年 古賀 光弘

前夜祭、文化祭の両日ともあいにくの雨でしたが、無事に終えることができました。出演して頂いた皆様、出店・展示の各団体には、ご協力いただき、大変ありがとうございました。

特に、文化祭の日は雨が強く、終日内部ステージでした。来場者数が減り、さみしい文化祭になってしまうのではないかと心配でしたが、下の写真のように盛大な文化祭となり大変満足しています。

第48回高専祭のテーマは『「Re:明日の高専祭どうする？」「Re:Re:行こうぜ！」』でした。悪天候にも関わらず、高専祭に足を運んでいただきありがとうございました。「高専祭どうする？」と話している時に、「行こうぜ！」と即答できる、そんな楽しい高専祭を目指して日々準備をしてきました。今年の高専祭を機に、来年以降も高専祭へと足を運んで下さる方が少しでも増えれば、大変嬉しく思います。

高専祭実行委員となって今年で4年目になりました。今年度は実行委員長として皆を引っ張ってきましたが、きつい思いもたくさんしました。高専祭が終わった今では、委員長をやった良かったと思っています。それは多くの経験ができ、実行委員のみんなと楽しい時間が過ごせたからです。来年は高専設立50周年でもあり、高専祭の運営もよりたいへんになると思いますが、後輩には精一杯頑張してほしいと思います。

最後に、学生の皆様、協力して頂いた教職員の皆様、地域住民の皆様、ご来場いただいた皆様、そして実行委員会の皆さんに、心より厚く御礼申し上げます。



みんなに支えられて

体育祭実行委員長
機械工学科5年 藤井 大輔

今年の体育祭のスローガンは「ピシャッとした体育祭」でした。久留米高専の体育祭は例年、時間通りにことが進まず、メイン競技の応援合戦以外はダラダラと競技進行が行われていました。私は2年生の頃から体育祭実行委員会に所属し、また3年生の頃から応援団にも所属しました。年を重ねるとともに自分が5年生になったときは何とかこの事態を打開したいと思い、応援団サイドと実行委員サイドの両方の意見をよりよく反映させた体育祭を作り上げることを目標に、このスローガンのもと実行委員長として今年の体育祭実行委員会を発足させました。結果として天候にも恵まれ、例年になくスムーズな体育祭を行うことができ、盛り上がり方もここ5年間で最高だったと確信しています。この体育祭の成功は空回りばかりしていた自分を支えてくれた実行委員のみんなを始め、たくさんの方の意見と話し合いに協力してくれた応援団、また担当の先生方の協力があってこそそのものだと思います。責任感とリーダーシップを兼ね備えた応援団長、自ら考え行動してくれた実行委員、今年は本当に素敵な仲間にも恵まれていました。

体育祭直前に自分が体調を崩した際も、突然のトラブルに上手く対処してくれました。本当に感謝しています。体育祭を通して、多くの学生が自ら考え行動に移すことで大きく成長することができたのではないかと思います。

今年度は久留米高専体育祭革命の第一歩です。今年のノウハウをもとに来年度は優秀な後輩がさらにより良い体育祭を作り上げてくれることを期待しています。



工場見学旅行で感じたこと

機械工学科 4年 山内 琢矢

私たち機械工学科は東京と神奈川へ52人という大人数で工場見学旅行に行きました。訪問した企業はANAの機体整備工場とJFEスチール東日本製鉄所、ディーゼル・タービンを製造する三菱重工横浜製作所、オイルシールなどを研究・開発しているNOK株式会社、マシニングセンタなどの工作機械を作っている牧野フライス製作所の計5社です。

私が今回の工場見学で感じたことは二つあります。それは、災害に対する意識の高さと国際化している企業の数々です。

一つ目の災害に対する意識の高さというのは、どこの企業も地震や津波の対策を行っており、もしもの時に備えて準備がしっかりしていたことです。例えば、ビルの外側には津波が来たときに避難すべき高さのしるしがあったり、大型の機械を金具で床に固定してあったり、災害にあった社員が家に自力で帰れるように一人ひとり災害用バッグが準備してあったりしました。多くの企業が費用と時間を割いてこのような準備を行っていることに意識の高さがうかがえました。

二つ目の国際化というのは、よくテレビや本などでは言われていますが、私自身あまり実感がわいていませんでした。しかし今回の工場見学で国際化というのを感じることができました。NOK株式会社に訪れた時には、隣の会議室でアメリカやドイツの国の人達と国際会議が行われていました。また、久留米ではあまり見ない外国人のスーツ姿の人も都内ではたくさん見ました。

他に感じたことは、古い建物や機械の多さです。世界に誇る日本の企業は最新鋭の機械を取り揃えていると思っていましたが、全く違いました。学校の工場のような古い機械をJFEスチールや三菱重工で目にしたときは少し驚きました。

工場見学を終えて得たものはたくさんありますが、私は改めて国際化している企業で必要な人材になりたいと感じました。



国内工場見学旅行

電気電子工学科 4年 鹿毛 俊貴

まず初めに電気電子工学科が行った国内工場見学旅行の日程を簡単に紹介します。初日は愛知県にてソニーEMCS株式会社幸田サイトの工場を見学し、ソニーの新型カメラRX-1の製造工程などを見学しました。二日目は株式会社ヤマザキマザック美濃加茂製作所とトヨタ自動車工場、トヨタ会館を見学し、三日目は大阪にてNTT西日本大阪支店を見学しました。そして四日目は大阪にて自主研修、五日目は奈良の文化財見学と大阪の道頓堀クルーズを満喫して福岡へと帰ってきました。

見学した企業はどれもがいわゆる大手企業であり、日本を支えているような会社の先端技術にあふれた工場や社風を見学できたことは、大変貴重な経験となりました。

私は特に電気の分野に興味がなく就職率などに惹かれて電気科に入った学生であったために、将来の仕事や就職後の生活についてのイメージがまったくわきませんでした。しかし工場見学旅行で電気系の卒業生が実際にどのような仕事をどんな考えを持ってしているのか、様々な話を見聞きし、なんとなくですが自分の将来のイメージがわいてきました。後悔のない選択ができるように様々な企業を調べるなどして、このイメージをさらにふくらませていきたいと思います。

四日目の大阪自主研修では、私はUSJに行き友達と最高の思い出を作ることが出来ました。私は級長なのですが、工場見学旅行をきっかけにクラスの雰囲気はさらによくなったように感じています。五日目は私個人としては突如体調を崩しあまり楽しめなかったのですが、就職について深く考えさせられる機会となるうえに最高の思い出をつくることができた国内工場見学旅行は、大変有意義で素晴らしいものとなりました。

最後に、このような機会を与えてくださった親や先生方に改めて感謝の意を述べたいと思います。本当にありがとうございました。



工場見学旅行を終えて

制御情報工学科 4年 中尾 亮介

私たち制御情報工学科は、9月24日から5日間で工場見学に行きました。着慣れないスーツを纏い、見慣れない場所へ旅立ったために、皆慌ただしく落ち着かない様子だったのを覚えています。けれども、それ以上に期待を抱き心を躍らせていた日々を過ごしていました。

今回私たちが見学させて頂いたのは、ユニバーサルコミュニケーション研究所、関西電力、本多電子(株)、トヨタ自動車工場です。また、シャープミュージアムやソニー・エクスプローラサイエンスなどの科学博物館にも訪れました。目に入ったものすべてが新鮮で、私は終始目を輝かせていました。私たちの学ぶ制御情報工学はもちろん、機械や電気工学において沢山の事を学び、非常に有意義な5日間となりました。

その中でも印象に残っている本多電子(株)では、超音波を応用した様々な製品を目と耳で感じ取り、実際に手に取ってその凄さを知り、「音」というものの魅力的な力に圧倒されました。超音波によって刃物を振動させると人の力では切れないものも軽い力で切ることができたり、液体を振動させると食器等の細かな汚れでさえも落とすことができたりすることに驚きを隠せませんでした。なぜこのようなことが可能にできるのか職場の方々から説明を受けた時、私は「音」の可能性と将来性を感じ、新しい技術において夢を現実に変える力があると考えています。人を助ける道具づくりにおいて、「音」は必要不可欠な素材となってくるのだらうと思います。

私たちは今回様々な場所を見学して、現在に至るまでの技術の歴史を学び、遠い未来の夢を具現化するために技術を進歩させていく試みを知りました。様々なものを吸収し、時には考えさせられ、貴重で刺激のある時間を過ごしました。皆それぞれが人として一回り成長でき、将来の自分について見つめ合い考えることのできた旅行となりました。

最後になりましたが、見学をさせて頂いた会社の方々、お世話になった先生方や旅行会社の方々に感謝致します。今回の旅行で経験したことをこれからの未来に生かせるよう日々努力していきます。ありがとうございました。



工場見学旅行

生物応用化学科 4年 山口 織音

私たち生物応用化学科4年生は、9月24日～28日までの5日間にわたり、東京・神奈川・埼玉の関東地区で工場見学旅行を行いました。その中で食品関連の森永乳業(株)、化粧品関連の(株)コーセー、石油化学関連の東燃ゼネラル石油(株)、医薬品関連の第一三共プロファーマ(株)の計4社を工場見学させていただきました。

第一三共プロファーマ(株)、(株)コーセー、森永乳業(株)では製品の製造ラインを見学しました。3社とも人体に直接かわる製品を製造しているので品質管理が徹底されていました。また、ラインは機械によって多くが自動化されていましたが、それぞれの会社によって従業員の勤務形態などが大きく異なっていました。東燃ゼネラル石油(株)では化学プラントを見学しました。化学プラントは、無数のパイプが工場全体に張り巡らされており、人があまりおらず、私の想像と大きく異なっていました。各工場では、社員の方々に難しい質問にも快く答えてもらいました。東燃ゼネラル石油(株)および(株)コーセーではキャリアを積むことの重要性を教えて頂いたり、森永乳業では高専本科および専攻科の卒業生がどのような仕事をしているのかを聞けたりと会社の具体的な部分を知ることができました。これらの工場見学を通じて、私たちがこれから進路を決めていく上での重要な学習をすることができました。

工場見学以外では鎌倉・横浜・浅草・台場などの観光名所での散策や東京ディズニーランドにも行きました。鎌倉の風情ある街並みや横浜の綺麗な夜景、ディズニーランドの煌びやかなパレードは胸に残る素晴らしいものでした。私にとって、工場見学旅行における5日間は楽しくて貴重なものになりました。



工場見学旅行を振り返って

材料工学科 4年 田中 和也

材料工学科は、工場見学旅行で東京、横浜、千葉に行きました。ここでは私達が見学した工場について私個人の感想も交えて紹介したいと思います。

9月24日、羽田空港に降りて、一番初めに向かったのはJAL羽田航空機整備センターです。ここでは、空港に到着した航空機が再び安全かつ快適に空を飛べるように、各種点検や部品交換などを行っている様子を見ることができます。空港から非常に近いため、整備を終えた航空機が再び飛びたつ様子や、着陸の様子も見られます。私達が見学した場所からは着陸する滑走路が見えたため、次々と航空機が着陸しては歓声を上げるの繰り返しで、とても楽しませて頂きました。

羽田を満喫した私達は横浜に移動し、翌25日は日産自動車横浜工場と東芝京浜事業所の見学を行いました。

日産自動車横浜工場では、エンジンの組立てのプロセスを見せて頂きました。殆どが機械による作業でしたが、繊細な調整を必要とする箇所では職人の手が使われており、エンジン1つ1つにも、製作者の思いがこもっているのを知って感動しました。

東芝京浜事業所では、火力発電に使われるタービンの製造工程を見学しました。どの部品も大きく、しかし厳密な寸法・加工度で仕上げる必要があるため、とてもシビアな世界だと思いましたが、私達の暮らしを支える上で非常に重要な工場なので、やりがいのある仕事だと思いました。

26日には、千葉市のJFEスチール(株)東日本製鉄所を見学しました。ここでは、高炉から運ばれた溶銑が、転炉で脱炭され、成分調整などを受けて連続鑄造されるまでの製鋼プロセスと、圧延工程を見せて頂きました。材料工学科の授業でも、製鋼プロセスについては学ぶのですが、工場内に充満する鉄の匂いや、空気を介して伝わる溶鋼の熱を感じながら実際に五感を使って学ぶのは材料工学科としてとても良い経験になりました。

どの工場も私達の暮らしに重要な役割を持っていることが分かり、このような万人の役に立つものづくりができることは、とても光栄なことであり、私達の理想とすべき形の一つだと思います。



新任教職員紹介



西 紀泰(にし のりやす)
 所属 総務課施設係
 職名 施設係長
 採用日 平成25年9月1日
 前職 九州大学病院経理課機械係長
 抱負 皆様にご迷惑をかけないように貢献できればと思いますので、よろしく願いいたします。
 趣味 音楽鑑賞



古賀 真知子(こが まちこ)
 所属 総務課総務係
 職名 主任
 採用日 平成25年8月1日
 抱負 不慣れなためにご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、皆さまのお役に立てるように頑張ります。よろしく願いします。
 趣味 映画鑑賞 読書 食べ歩き



藤好 理恵(ふじよし りえ)
 所属 学生課 図書係
 職名 事務補佐員
 採用日 平成25年10月1日
 前職 国土交通省九州地方整備局 事務補助
 抱負 しっかりと仕事を覚え、皆様のお役に立てるよう努めたいと思います。まだ業務に不慣れで、ご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、よろしく願いいたします。
 趣味 音楽鑑賞

KMITLへの派遣と9高専連携事業

制御情報工学科准教授 黒木 祥光

昨年度の7月22日から11月30日まで、途中約2週間の一時帰国を挟んで高専機構の在外研究員としてタイのキングモンクット工科大学ラカバン(KMITL)に滞在しました。モンクット王は現在のチャクリー王朝第4代目の王様で、科学技術の発展を奨励し、映画「王様と私」のモデルになった方です。KMITLはタイ国内で非常にレベルの高い国立大学として知られており、入試倍率は20倍以上(ただし、複数の国立大学を受験可能)だそうです。滞在中は高専機構から依頼された仕事、例えばエゾンオフィスの準備や高専に留学生を派遣するための調整などのほか、情報学部のKuntpong先生の研究室で学生と共にタイ文字の画像認識に関する共同研究を行いました。Kuntpong先生は5月に本校に滞在しましたので、見かけた方もいらっしゃると思います。また、現在も月に2回の頻度でインターネットを介した共同ゼミを行っています。

ところで、昨年度に九州沖縄地区9高専10キャンパスによる大学間連携共同教育推進事業「高専・企業・アジア連携による実践的・創造的技術者の養成」(略称:9高専連携事業)が採択され、交流協定を結んだ大学から派遣の相談が既に来ています。次年度以降、東南アジアから短期間留学した学生と会う機会があるかもしれません。彼ら・彼女らは日本語が分からず、我々とは互いに母語ではない英語で話し合うしかありませんので、意思疎通には困難と喜びを伴うと思います。しかし、科学技術を学ぶものとして共通する点は多いでしょう。経済発展著しい東南アジア諸国の大学生との交流を通じて学生諸君のコミュニケーション能力、異文化を理解する広い視野、技術者としての研究開発能力が向上できればと思っています。

写真の説明:エメラルド寺院にてKuntpong先生(後段右)、Kitsuchart先生(後段左)と大学院生(前段)と共に



タイ・バンコク学生交流会

機械・電気システム工学専攻1年 伊瀬知 光平

8月26日から9月6日の間、9高専連携事業の一環としてタイでの学生交流会に参加した。KMITL、カセサート大学、キングモンクット工科大学北バンコク校(KMUTNB)を訪問し、交流を行った。

KMITLでは、お互いの学生による研究の紹介、オープンキャンパスへの参加などがあった。学生のみで行動する時間も多し、タイの学生と共に学校付近の町中の観光等もできた。最も印象に残ったのはオープンキャンパスで、広いキャンパスを埋め尽くす程の大勢の高校生が参加し、Google、Microsoft等の企業もブースを用意していたことに驚いた。学生による展示も、ヘッドマウントディスプレイを用いた擬似3次元空間の体験や、ハッキング体験ができるブース等、面白いものが多かった。

カセサート大学やKMUTNBでは、ひと通り研究室やキャンパスを見学したが、自分の専門分野と違う学部の説明は英語が全然聞き取れなかった。自分の専門に関するかどうかで英語の難易度が明らかに変わってくる事を実感した。カセサート大学は元々が農業系の大学だったため、牛を飼育している牧場や、タイでよく生える草から肥料を作る機械、果ては昆虫を飼育している昆虫ドームまで見学できた。

最終日が一日自由行動だったため、アユタヤ遺跡の観光ツアーに参加した。ツアーでは、アユタヤ王朝時代の君主が夏の別荘として利用した宮殿や、戦争によって破壊された仏像や遺跡等を見ることができた。

今回の交流会を通じて、初めて海外に飛び出すことで自分の知らなかった世界を知ることができた。また、自分の英語能力の低さを改めて実感した。年の近い学生と英語でのコミュニケーションを通じて、もっと英語を勉強して自由にコミュニケーションを取れるようになりたいという思いが強くなった。今後このような機会があれば、積極的に参加していきたいと思う。



清掃活動から学んだこと

学生会中央執行委員会文化局長
電気電子工学科 4年 古川 諒一

今年度の試みとして、学生会が主体となって『きらりん☆高専美化計画』と命名して、清掃活動を行いました。この活動は、夏と秋の二回行いました。

一度目は、夏期休暇中の7月28日に自転車整理を行いました。この日は、ソフトテニスボール部、バレーボール部、バドミントン部等の部活動の参加があり、男子は駐輪場の放置自転車の整理、女子は女子更衣室の整理を行いました。途中で通り雨などに遭う等のアクシデントもありましたが、無事清掃活動を終えることができました。清掃終了後には、交流会としてかき氷やアイスなどが振舞われました。

二度目の清掃活動は高専祭前の10月19日に行われ、商店街の清掃と高専内の花植え、高専内の清掃などを行いました。毎年、前夜祭のイベントの一つとしてお御輿が商店街を通ります。その時商店街の皆さんにはたくさんのご協力を頂いております。その感謝の気持ちとして、清掃活動を行いました。忙しい中、多くの高専祭実行委員、体育祭実行委員会が参加していただき、丸一日活動することができました。また、作業終了後の交流会ではぜんざいやミカン等がだされました。

二度の清掃活動を通して、ゴミの量に驚きました。自転車整理では放置自転車やサビついて使えない自転車が大量においてあり、商店街では持ち帰るのにも一苦労するほどの大量のゴミを回収しました。こういったゴミは、一人の手によって出されているわけではなく様々な人が様々な理由で捨てたり放置したりしたものが大量のゴミとなっているのです。『塵も積もれば山となる』この言葉を体感できました。こういったことをなくすためには、普段の心がけが大切だと思います。ゴミをポイ捨てする前にそのゴミを拾う人のことを考えれば、ポイ捨てることもなくなると思います。なので、こういった活動を続けていけば清掃をする人も増えるので、ポイ捨てる人も少なくなると考えています。ゴミを清掃する以上にゴミを捨てない事の方が大切なのでこういった清掃活動は、ぜひ続けていこうと思います。



リーダー研修会を終えて

学生会中央執行委員会渉外局長
電気電子工学科 4年 岩崎 公洋

私たち中央執行委員会は、6月にリーダー研修会というものを行いました。内容は、龍頭先生に「リーダーとは？」ということで講義をしていただいたり、いくつかのグループに分かれてテーマに沿って議論し各グループ答えを発表するというワークショップを行ったりしました。

このリーダー研修会は中央執行委員会の活動としては初めての試みで、きっかけとなったのは他高専の影響がありました。他高専と交流し情報交換している中で、他高専の学生会は自分たちでリーダー研修会のような研修会を企画して学生のスキルアップをしていました。このことを知って私たちは久留米高専にもこういった企画が必要だと感じました。

新しいイベント「リーダー研修会」を実行するにあたって私が一番気をつけたところは、このイベントを通じて学生が様々なことについて考えるようになって欲しいということです。イベントの中で何かを得ることもとても大切だと思いますが、イベントが刺激になって今後の高専生活の中で色々と考えてもらえたらいいなと思い実際に体験できるような内容にしました。

今回のリーダー研修会を通して参加した学生も運営として携わった中央執行委員会の学生も『リーダーとは？』ということについて色々考えることができたのではないかと思います。私自身、龍頭先生の講義や参加してくださった学生のみさんのワークショップの回答はすごく勉強になりました。これからリーダーとして活躍する人もそうでない人も今回の研修会で学んだことを生かせるのかなと思います。

そして、今回の研修でたくさんの反省や課題も見つかりました。中でも多く聞かれた意見が「リーダーにはコミュニケーション能力が必要ではないか？」という意見でした。そこで私たちは、新たな企画として「コミュニケーション研修会」というものを企画しています。これからもこういった新しい企画が久留米高専の学生の糧になっていければと思っています。



久留米高専生の自立

学生会中央執行委員会委員長
材料工学科5年 松浦 紅

今年度、学生会中央執行委員会は数多くの新たな取り組みに挑戦してきました。学生たちの生の声を先生方に届けたいと月に1回の学生主事室との会議をはじめ、学生自身が積極的に学校を改善しようと取り組めるような企画(先の『リーダー研修会』、『きらりん☆高専美化計画』など)、さらには、意見箱なるものを設置し、より多くの意見を回収しているところですが、また、各部活動や実行委員会が活発に広報し宣伝できるように、ウェブホールのディスプレイを活用したり、ごみの分別意識を高め社会貢献しようと、ペットボトルのキャップ回収を企画したりしているところです。どのイベントも各部長、各級長と協力をしあいながら進めています。

私は、この久留米高専の自立を重んじる校風にひかれ、入学してきました。現在5年生になり、先生方がわたしたち学生を尊重していただき、のびのびと勉学に学生行事に取り組める体制を整えるためにご尽力くださっていることを改めて感じているところです。ただ、自立には責任も必要です。それをきちんと認識したうえで日々の生活をよりすこしやすく、この久留米高専を誇りに思えるように、中央執行委員会が中心となって学生が自分で考え自分で行動していけるよう、取り組んでいきたいと思えます。

中央執行委員会は、12月の学生大会で役員の選出があります。今年度新しく企画し運営した取り組みを、ひとつひとつ確認しながら、継続していきたいと思えます。わたしたち学生が考え行動できるこの環境を、なくすことのないよう責任をもって行動することが大事だと考えます。ひとりひとりが意識し、久留米高専生の誇りを持って過ごしていきます。



特許出願を終えて

機械・電気システム工学専攻2年 田中 友隆

私が創造工学実験で作成した「歩行器」が、特許庁の審査を経て、特許として認められました。作成した「歩行器」を平成24年度パテントコンテストに応募し、特許出願支援対象として私の発明が選ばれ、主催団体の支援の下、実際に明細書を作成して出願しました。

明細書作成は、原特許事務所の原先生にご指導して頂きながら進めていきました。自分の発明を、読んだ人にしっかり理解してもらえるような明細書を書くことは本当に大変でした。明細書は、いわゆる研究論文とはまた違った書き方であり、最初から最後まで原先生にお世話になってしまいましたが、無事出願することができました。また、普段の生活ではなかなか特許をはじめとした知的財産権について考える機会も少なく、発明から特許取得までの一連の流れを経験できたことは大変貴重な経験になったと思います。

今回、「歩行器」が特許として認められましたが、本当に大切なのは今からだと思っています。特許を取得したことに満足してしまうのではなく、この権利を自分はどうしたいのか、しっかり考える必要があります。まずは、自分の特許を周知するために行動を起こしていかなければならないと思っています。本当のスタートは今からなのかもしれません。

最後になりましたが、創造工学実験で指導して頂いた機械工学科の田中先生、パテントコンテスト応募に関してご指導して頂いた機械工学科の原田先生、明細書作成から特許出願までご指導して頂いた原特許事務所の原先生に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



学生寮の行事報告

寮務主事補 松本 光広

対面式

4月9日(火)に学生寮の対面式を開催しました。泉本寮務主事から「暮らしやすい寮となるよう、寮生一人一人が、規律正しい生活を送ることを期待する。」との挨拶があり、鹿毛寮生会長(電気電子工学科4年)から「一日でも早く久留米高専に慣れるよう、寮生会は喜んで応援したい。」との挨拶がありました。

春の寮祭

4月20日(土)に学生寮にて春の寮祭を開催しました。ドッジボール大会を行い、夕方からは、テントの中でバーベキューパーティーを行いました。

ヘルスチェックキャンペーン

5月9日(木)にヘルスチェックキャンペーンを開催しました。肌水分の測定や、骨の健康度の測定、交感神経・副交感神経の測定によるストレスチェックなどのテストが実施されました。

保健衛生講習会

5月9日(木)に保健衛生講習会が開催されました。ルミテスターという清潔度を測定する器具を使い、衛生検査を実施しました。

母の日感謝デー

5月12日(日)に毎日の食事提供や保健衛生の指導、各種講習会での研修などで大変お世話になっている学生寮食堂の従業員に対して、日頃の感謝の気持ちを表したところばかりの花のブーケと寄せ書きの色紙をプレゼントしました。

第1回文化講演会

5月15日(水)にタイにあるキングモンクット工科大学ラカバン校情報学部のカンポン・ウォラパンヤ助教による第1回文化講演会を開催しました。タイの美しい自然、仏教寺院や王宮などの歴史的建造物、水の祭典や食事など現代の生活風景のスライドや、キングモンクット工科大学KMITのビデオが上映され、英語での講演や質疑応答が行われました。

テーブルマナー講習会

6月16日(日)に学生寮食堂にて、洋食のコース料理の基本的な作法についてのテーブルマナー講習会を開催しました。寮生は、スーツ、ネクタイ又は学生服を着用し、着席から離席までの動き方やカテラリー(ナイフ、フォークなど)の使い方を習いながら、魚はサーモンのムニエル、肉はポークソテーを中心とした本格的なコース料理をいただきました。

第2回文化講演会

6月19日(水)に第2回文化講演会「留学生による母国事情～異文化理解のために」を学生寮で開催し、マレーシアからの留学生サラさん(機械工学科4年)、シャフワン君(電気電子工学科3年)、イルマン君(機械工学科3年)から母国の文化についての紹介があり、身近な異文化理解を深めることができました。

第3回文化講演会

6月26日(水)に第3回文化講演会「留学生による母国事情～異文化理解のために」を学生寮で開催しました。バングラデシュの留学生イムラン君(材料工学科3年)と、モンゴルの留学生ナンサーさん(生物応用化学科4年)から母国の文化について紹介がありました。南アジアのバングラデシュの6つの季節区分(日本の四季に梅雨、晩秋を加える)や中央アジアのモンゴルの遊牧民の生活などが紹介され、遠い異国文化の見識を深めることができました。

大清掃・バーベキューパーティー

6月30日(日)に学習室や寮生会室、浴室、廊下、階段、ゴミ置き場など寮建物内の共有スペースの大清掃を行い、新年度から溜まっていたゴミを片付けることが出来ました。清掃終了後は、バーベキューパーティーが開かれました。

第4回文化講演会

7月4日(木)に学生寮にて第4回文化講演会「留学を終えて～海外留学から学んだこと」を開催しました。オーストラリアのキャンベラ大学での約1年間の語学留学から帰国した山田雄大君(物質工学専攻2年)、約10カ月間のアメリカの公立高校への交換留学プログラムに参加した川上留実さん(制御情報工学科3年)と福島彩さん(同3年)が、それぞれの留学体験をもとに、言葉や異文化理解に苦勞した経験など、留学先の写真を交えながら講演を行いました。また、昨年8月に、創部50周年記念事業の一環として、オーストラリアのシドニーを訪問したラグビー部の学生が、国際試合やスポーツ文化などを紹介しました。



柳川ソーラーボート大会に参加して

材料工学科 4年 古矢 怜

今年の柳川ソーラーボート大会では私たち自然エネルギー研究同好会は二位を獲得しました。どのようにして二位を取ったのかお話ししたいと思います。

昨年の大会では決勝で船体がコース壁に接触することが原因でリタイアを余儀なくされました。この原因として、船体の操作性の悪さがありました。私たちの作る船体は全体的に細長くシャープな形に作っていて、それゆえに直線では速いのですが、カーブでは抵抗を大きく受けるため曲がりにくい船体を作っていたのです。そこで私たちは一つしかなかった舵を二つにすることにしました。新しくつけることになった舵は船体の前の部分に穴をあけて取り付けることになりました。言葉にすると簡単そうですが、実際に行くと相当な難しさがありました。船体に穴をあける際、船体に対して舵は垂直でなければいけません。これは少しでも傾けて取り付けた場合、舵を回転させた際に隙間が生じるからです。何度も抜き差ししながらゆっくりと削っていき、ようやく舵が垂直に通った時の喜びは今も忘れられません。そのあとは船体に必要な計器、ソーラーパネル、モーターなどを乗せ、ソーラーボートは完成しました。このような経緯を辿って、今年の大会では予選を二位通過し、優勝が視野に入る順位に一同喜びました。しかし翌日は生憎の荒天で決勝戦は中止になり、予選の順位がそのまま大会の記録となりました。今年の船の性能を考えると優勝を狙えたので、決勝の中止はひどく残念でした。

来年こそはと意気込んで、今年のボートとはまた違う別のボートを一から作り直し、二隻で優勝を狙おうと考えています。



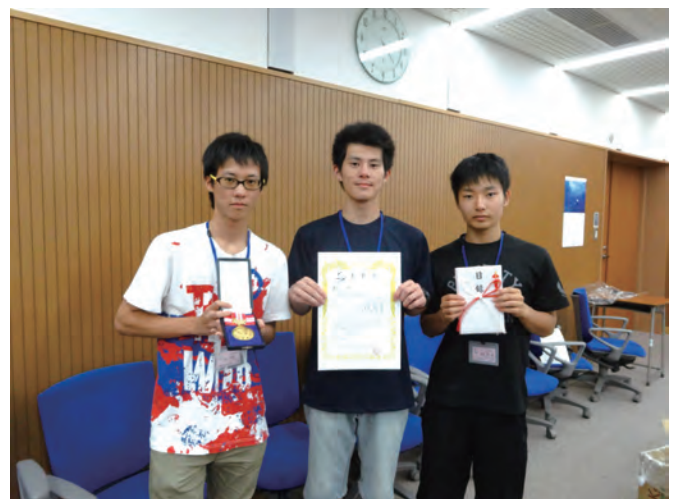
第19回スーパーコンピューティングコンテスト

制御情報工学科 2年 吉田 涼一郎

今年の8月に、東京工業大学と大阪大学の共同主催で第19回スーパーコンピューティングコンテスト(通称:スーパーコン)が開催されました。この大会は予選を勝ち抜いてきた東日本西日本各10チーム(1チーム3人)の高校生達が、東日本は東京工業大学、西日本は大阪大学に集まり、スーパーコンピュータTSUBAME2.0を使って、膨大な計算量を必要とする問題に対していかに正確かつ高速なプログラムを作れるかを4日間のプログラミングによって競う大会でした。また、今大会のテーマは、昨年に引き続き、GPU(Graphics Processing Unit)を用いた並列化処理による高速化でした。

本選の問題はトーラス(ドーナツ型)の宇宙空間を舞台としてその中にある多数の粒子の動きや衝突をシミュレートし、複数ある宇宙のデータに対して、ある時間において一致するものを探し出し、対応関係を導くというものでした。私達はこの問題に対して、計算量をできるだけ少なく出来るアルゴリズムを探した結果、他の参加者やチューターの方々、そして出題者ですらも気付かなかった効率的な解法を見つけ、GPUで並列化処理をするまでもなく優勝することができました。スーパーコンにおいて久留米高専初の優勝でもあったので、優勝が決まった時は、うれしい気持ち以上に信じられない気持ちがありました。

ただ、アルゴリズム自体は優れていたものの、GPUを使わなかったことで、GPUによる優れた高速化をしたチームに贈られる学会賞は2位のチームに譲ることになってしまいました。このことは少し残念に思ったので、来年は連覇しながらも、学会賞を取ってくることを目標にしたいです。



第50回九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会(夏季)の主な成績(7月12日~21日)

バスケットボール	男子		準優勝	
バドミントン	女子団体		優勝	全国大会出場
陸上競技	100m	5S 藤吉 輝明	第3位	全国大会出場
	400m	5S 石橋 聡	第2位	全国大会出場
	800m	5E 日下部 寛	第1位	全国大会出場
	110mハードル	3E 足立 智一	第1位	全国大会出場
	4×400mリレー	4M 山内、5S 石橋、5E 日下部、5S 藤吉	第3位	
三段跳		5E 中村 亮太	第3位	全国大会出場
	女子800m	3S 中村 優花	第2位	全国大会出場
ソフトテニス	女子個人ダブルス	2M 佐藤、2M 中島	第2位	全国大会出場
バドミントン	女子シングルス	3C 本川 彩奈	第2位	全国大会出場
	女子ダブルス	3C 本川、3C 神之蘭	第1位	全国大会出場
水泳	女子50m背泳ぎ	5C 碓井 美咲	第1位	全国大会出場
	女子200mリレー	1C 壇、1C 吉田、3S 川上、5C 碓井	第2位	
剣道	男子個人	5S 藤崎 翔也	第3位	全国大会出場
柔道	90kg超級	5A 上葉 健人	第1位	全国大会出場

第48回全国高等専門学校体育大会(夏季)の主な成績(8月18日・28日)

バドミントン競技	女子団体		準優勝
----------	------	--	-----

第19回スーパーコンピューティングコンテスト(SuperCon 2013) (8月19~23日)

チーム名 imishinn	2S久保田、2S吉田、2S船越	優勝
---------------	-----------------	----

第50九州沖縄地区国立高等専門学校体育大会(冬季)の主な成績(11月9日~12日)

ラグビーフットボール	準優勝	全国大会出場(3年連続通算25回目)
------------	-----	--------------------

平成25年度(平成26年3月)卒業予定者の就職内定状況

久留米工業高等専門学校

機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科
JFEスチール株式会社 ANAバースメソノカニカ株式会社 JXエンジニアリング株式会社 株式会社イシモクコーポレーション NOK株式会社 パロニアードエンジニアリング九州株式会社 東海旅客鉄道株式会社 加速器エンジニアリング株式会社 株式会社日立情報通信エンジニアリング ヤマハ発動機株式会社 三菱重工株式会社(4名) 福岡酸業株式会社 株式会社カシワジ 株式会社東洋硬化 株式会社小松製作所 株式会社牧野プライス製作所 第一精工株式会社	イーエレクトクス株式会社 東海旅客鉄道株式会社 株式会社日立ビルシステム 株式会社富士通九州システムサービス 九州電力株式会社 東芝メテカールシステムズ株式会社 関西電力株式会社 西部ガス株式会社 中部電力株式会社 中国電力株式会社 JXエンジニアリング株式会社 三菱電機システムサービス株式会社 加速器エンジニアリング株式会社 矢崎総業株式会社 サンリツオートメーション株式会社 大原包装工業株式会社 株式会社 新日本設備計画 東芝三菱電機産業システム株式会社 富士電機株式会社 株式会社新日南 株式会社アバンテ 博多港ふ頭株式会社 富士古河E&C株式会社 第一精工株式会社 電源開発株式会社 大阪ガス株式会社 ダイキン工業株式会社 株式会社NTTフィールドテクノ NSウエスト株式会社	第一三共プロファーマ株式会社 三菱プラントエンジニアリング株式会社 株式会社日本ビジネスエンジニアリング サニム・ユニオン株式会社 富士通ネットワークソリューションズ株式会社 TOWA株式会社 NECネットワークエンジニアリング株式会社 株式会社サンクライム セイコーエプソン株式会社 株式会社中央エンジニアリング 株式会社イシモクコーポレーション 株式会社朝日プリンテック アイシン・コムグループ株式会社 富士通株式会社 中国電力株式会社 株式会社サイタス・マネジメント 三菱電機ビルテクノサービス株式会社 出光興産株式会社 ニコン株式会社 NSウエスト株式会社 株式会社日本生物製剤 株式会社東洋新薬 関西電力株式会社	協和醗酵バイオ株式会社 株式会社久原本家食品(2名) 大正製薬株式会社 DICグラフィックス株式会社 昭栄化学工業株式会社 TOWA株式会社 第一三共プロファーマ株式会社 三菱ガス化学株式会社 東レ株式会社 三洋化成工業株式会社 独立行政法人国立印刷局 極東石油工業合同会社 JNC株式会社 住友精化株式会社 シオノギ分析センター株式会社 和光純薬工業株式会社 大日精工業株式会社 株式会社日本生物製剤 花王株式会社 シスメックス株式会社	株式会社三松 株式会社ディスコ ダイハツ工業株式会社 シオノギ分析センター株式会社 ラサスティール株式会社 JX日鉱日石金属株式会社 株式会社東洋新薬 株式会社九州柴田フォーシング 日本モレックス株式会社 三菱重工株式会社 ダイキン工業株式会社 NOK株式会社 東伸熱工株式会社 DOWAサーモエンジニアリング株式会社 新日鐵住金株式会社 旭テック株式会社 丸東産業株式会社 日本ビストロリング株式会社 磯部鉄工株式会社

平成25年度(平成26年3月)専攻科修了予定者の就職内定状況

久留米工業高等専門学校

機械・電気システム工学専攻	求職者 男 5 女 1	株式会社NTTデータ 第一精工株式会社、富士電機株式会社 三菱電機ビルテクノサービス株式会社
	内定者 男 3 女 1	
物質工学専攻	求職者 男 3 女 2	DIC株式会社、住友精化株式会社 日東電工株式会社 旭化成株式会社(2名)
	内定者 男 3 女 2	

平成26年度 他高専専攻科合格状況

学 校 名	志 願 者 数				受 験 者 数				合 格 者 数				
	機 械	電 気	生 化	材 料	機 械	電 気	生 化	材 料	機 械	電 気	生 化	材 料	計
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成26年度 専攻科 大学院合格状況

大 学 院 名	受 験 者 数				合 格 者 数				入 学 者 数			
	機 械・電 気 システム 工学専攻	物 質 工 学 専攻	計	機 械・電 気 システム 工学専攻	物 質 工 学 専攻	計	機 械・電 気 システム 工学専攻	物 質 工 学 専攻	計			
長岡技術科学大学院 (工学研究科)	1		1	1		1						0
九州大学大学院(総合理工学府:推)	3	4	7	3	2	5						0
九州大学大学院(システム生命科学)	1		1	1		1						0
九州工業大学大学院(システム情報科学)	2	2	4	2	2	4						0
九州工業大学大学院(生命体工学研究科)	1		1	1		1						0
九州工業大学大学院(情報工学府:推)	1		1	1		1						0
東京大学大学院(新領域創成科学研究科)	1		1	1		1						0
東京工業大学大学院(総合理工学府)	2	1	3	2	1	3						0
東京工業大学大学院(理工学専攻)	1		1	1		1						0
京都大学大学院(エレクトロニクス情報工学)	1		1	1		1						0
筑波大学大学院(システム情報工学)	0		0	0		0						0
北海道大学大学院(情報科学研究科)	0		0	0		0						0
北陸先端科学技術大学院大学 (情報科学研究科)	1		1	1		1						0
北陸先端科学技術大学院大学 (システム工学専攻)	2		2	2		2						0
奈良先端科学技術大学院大学 (情報科学研究科)	1		1	1		1						0
奈良先端科学技術大学院大学 (物質創成科学研究科)	1		1	1		1						0
熊本大学大学院(自然科学研究科)	1		1	1		1						0
早稲田大学大学院 (情報システム学研究科:推)	2		2	2		2						0
合 計	15	11	26	15	8	23	0	0	0	0	0	0
重複者を除く実数	15	6	21	15	6	21						0

平成26年度 大学編入学合格状況等

平成25年11月8日現在

大 学 名	志 願 者 数				受 験 者 数				合 格 者 数					
	機 械	電 気	生 化	材 料	機 械	電 気	生 化	材 料	機 械	電 気	生 化	材 料	計	
豊徳技術科学大学(工学:推薦)	1	5	1	2	3				2				2	
豊徳技術科学大学(工学)	1	17	1	14	1	14	1	1	1	1	7	1	10	
長岡技術科学大学(工学:特別推薦)	2	2	1	1	1				1				1	
長岡技術科学大学(工学:推薦)	5	10	1	10	5	10	1	3	5	10	1	3	9	
九州大学(工学)	4	13	2	13	4	13	2	2	4	13	2	2	8	
九州大学(芸術工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	4	
九州大学(理学)													0	
九州工業大学(工学:推)	2	3	1	3	2	2	2	1	2	2	1	3	5	
九州工業大学(情報工学:推)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	
九州工業大学(情報工学)	1	2	1	2	1	2	1	1	1	2	1	1	3	
佐賀大学(理工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
佐賀大学(農学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
熊本大学(工学:推)	4	11	1	11	4	11	1	1	4	11	1	1	11	
熊本大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
鹿児島大学(工学)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6	
山口大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
愛媛大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
島根大学(総合工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
金沢大学(理工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
岡山大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
岡山大学(工学)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6	
広島大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
広島大学(理学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
広島大学(生物生産学)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6	
大阪大学(基機工)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
大阪大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
京都工芸繊維大学(工芸科学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
神戸大学(農学)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	9	
三重大学(生物資源学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
滋賀大学(経済学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
岐阜大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
名古屋工業大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
静岡大学(農学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
山梨大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
東京大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
東京工業大学(生命理工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
東京工業大学(工学)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6	
東京工業大学(工学)	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	9	
京都大学(工学部)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	6	
電気通信大学(情報理工学部)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
横浜国立大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
筑波大学(情報学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
筑波大学(社会学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
埼玉大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
千葉大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
千葉大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
山形大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
東北大学(工学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
北海道大学(農学)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	
合 計	25	23	22	34	27	131	24	23	21	31	27	126	17	74
重複者を除く実数	14	8	11	15	16	64	14	8	11	15	16	64	13	14

平成26年度 久留米高専専攻科合格状況

学 校 名	志 願 者 数				受 験 者 数				合 格 者 数				
	機 械	電 気	生 化	材 料	機 械	電 気	生 化	材 料	機 械	電 気	生 化	材 料	計
久留米高専専攻科(推)	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	13
久留米高専専攻科(学)前期	11	6	5	9	11	6	5	9	11	6	5	9	25
久留米高専専攻科(学)後期	3	5	2	2	3	5	2	2	3	5	2	2	8
合 計	18	12	9	10	15	64	18	12	9	10	15	64	46

本号掲載記事の無断転載を禁止します